

地域フランス語における 談話標識**bon, ben**の用法の一考察

2021年7月14日（日）科研B第1回研究会

大河原 香穂（東京外国語大学大学院 博士後期課程）

清宮 貴雅（東京外国語大学大学院 博士後期課程）

川口 裕司（東京外国語大学）

目次

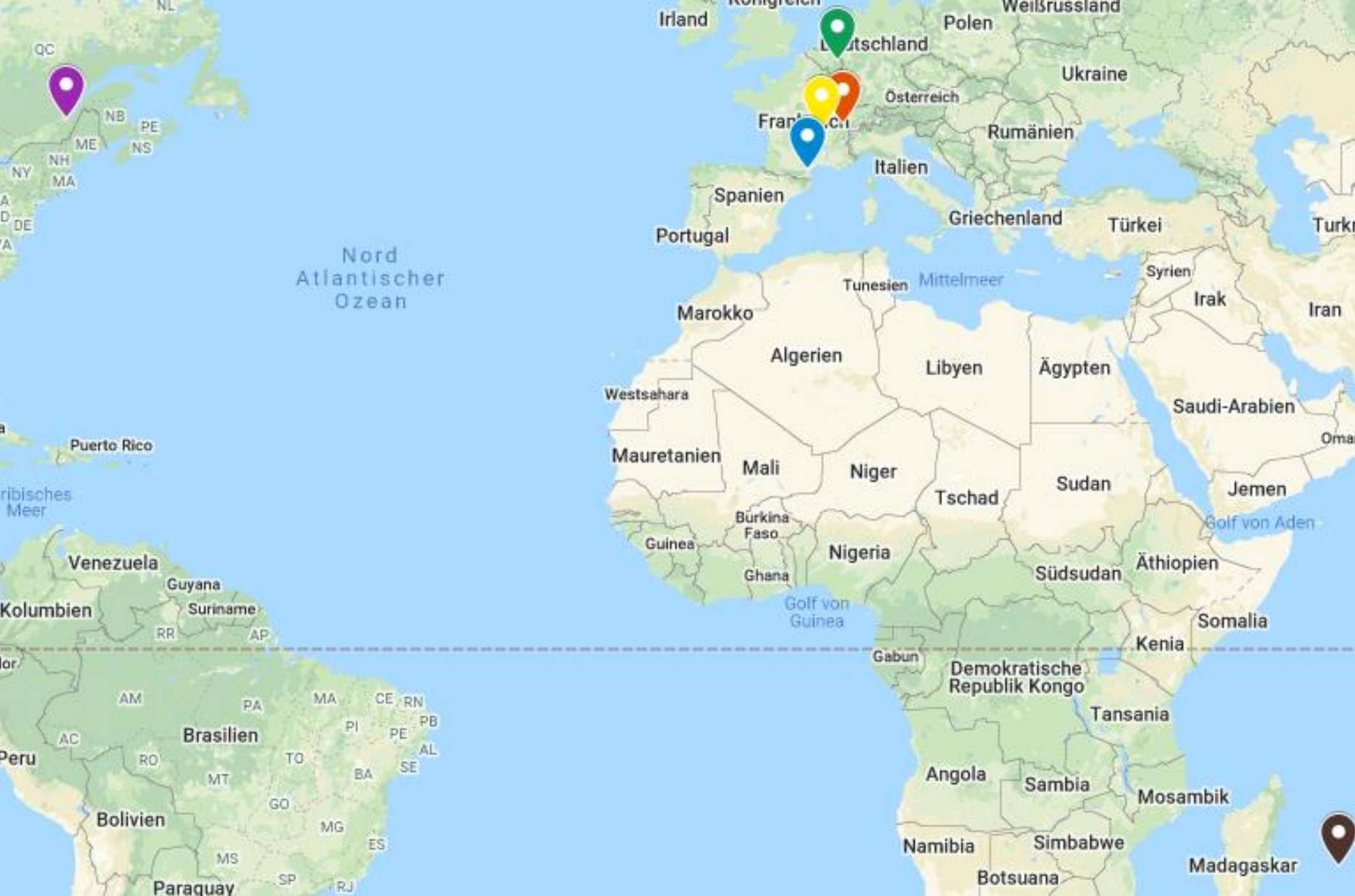
- はじめに
- 本発表における分析対象語彙と地域
- 質的分析
- 結論
- 引用文献
- 謝辞

はじめに

本発表の前提

- 東京外国語大学准教授 秋廣尚恵先生が研究代表を務める『現代フランス語話し言葉における談話標識と言語変異の記述』の研究補助の一環
- 2020年度、川口ゼミ内で報告を行った（6月と12月）
Phonologie du Français Contemporain（PFC, 現代フランス語音論）コーパスの自由会話の一部を用いて、『6地域の地域フランス語において、どのような語が談話標識（DM）として使用されているのか』を量的に分析し報告した。

コーパス



ヨーロッパ

- ロアンヌ (フランス)
- ドゥゼンス (フランス)
- リエージュ (ベルギー)
- ニヨン (スイス)

アメリカ大陸

- ケベック (カナダ)

海外領土

- レユニオン島 (海外県)

以下のように略記することもある

D = ドゥゼンス, L = リエージュ,
N = ニヨン, Q = ケベック,
R = ロアンヌ, RE = レユニオン

https://www.google.com/maps/d/u/0/edit?mid=1NVtuWhnO89O_G8nrzUIIuxiAS_IL5Er&ll=8.222540974075901%2C-7.835798450000006&z=3

① 2020年6月14日のゼミ内での発表の概要

表1. コーパス規模(2020年12月14日の発表時のもの)

コーパス名	ロアンヌ	ドゥゼンス	リエージュ	ニヨン	ケベック	レユニオン
会話数	9会話	6会話	12会話	6会話	4会話	7会話
異なり語数	1,759	1,637	1,779	2,044	915	1,349
生起数	12,494	11,808	10,537	12,846	5,154	6,291

全44会話
計 59,130 tokens

① 2020年6月14日のゼミ内での発表の概要

- 2020年6月14日発表内容の分析結果

- 1-gram

	談話標識
各地域コーパスにおいて 生起数が多かった語	alors (R), ben (Q, R, RE), bon (D), hein (L), là (Q, D, RE), parce (N), puis (Q, N), quoi (L)
どの地域コーパスでも 生起数が多かった語	euh, et, mais

D = ドゥゼンス, L = リエージュ, N = ニヨン, Q = ケベック, R = ロアンヌ, RE = レユニオン

- 2-grams

et puis, tu vois, oui mais, non mais, puis euh

② 2020年12月14日のゼミ内での発表の概要

- 6月の発表を基に、DMとして使用されていそうな11語に関して、10万語当たりの相対頻度を用いて統計的分析を行った。クラスター分析（ウォード法，平方ユークリッド距離）を行った。
- リサーチクエストション
 - I. 地域や話者による、DMの使用に関する傾向が見られるか
 - II. 社会言語学的パラメーター（年齢，性別）がDMの使用の有無に関係しているか
 - III. DMの使用に、話し手と聞き手の相互作用が見られるか

② 2020年12月14日のゼミ内での発表の概要

I. 地域や話者による、DMの使用に関する傾向が見られるか

- 1-gramに関して
 - ニヨン、リエージュ：-1à (Re, R, D 比)
 - レユニオン、ロアンヌ、ドゥゼンス：+1à (N, L 比)
 - ケベック：-alors

② 2020年12月14日のゼミ内での発表の概要

I. 地域や話者による、何かしらの傾向が見られるか

- 2-gramに関して
 - ニヨン&ロアンヌ : + et puis
 - リエージュ : + tu vois
 - ケベック : + puis euh
 - レユニオン : - puis euh
- oui mais, non mais の使用頻度には地域差なし

② 2020年12月14日のゼミ内での発表の概要

II. 社会言語学的パラメーター（年齢，性別）がDMの使用の有無に関係しているか

- 性別（全地域）
 - 性別と使用する談話標識に関連性なし
- 年齢（D, N, R, REのみ）
 - 全体としては明確な関連性は見られなかった
 - ドゥゼンスでは年齢と談話標識の使用に関連性があることが示唆された

② 2020年12月14日のゼミ内での発表の概要

III. DMの使用に、話し手と聞き手の相互作用が見られるか

- 同じ回の録音に参加している人が、クラスタリング分析で先に結合されるということとはなかった。



相互作用によって談話標識が選択されている可能性は低い

昨年度ゼミ内で行った報告のまとめ

- 各地域フランス語コーパスにおける、DMとして使用されているような語に関する量的傾向がある程度明らかになった。
- 質的な分析、すなわち各地域フランス語における具体的なDMの意味機能の分析を行う必要がある。

本発表における 分析対象語彙と地域

本発表における分析対象語彙

- 昨年度分析対象とした11種の語、5種の2-grams全ての意味分類を一度に全て行うのは困難。
- 質的分析では、小分けに分析していくこととした。

本発表における分析対象語彙

- 選定基準

1. 1-gramのDM
2. 生起数が多すぎないDM
3. 地域による生起数に偏りがあまりないDM

bonとbenを本発表の分析対象とした。

本発表における分析対象地域

- レユニオンコーパスを分析の対象から外した
→ クレオール語で会話が進行することがある



- ヨーロッパ
 - ロアンヌ（フランス）
 - ドゥゼンス（フランス）
 - リエージュ（ベルギー）
 - ニヨン（スイス）
- アメリカ大陸
 - ケベック（カナダ）

https://www.google.com/maps/d/u/0/edit?mid=1NVtuWhnO89O_G8nrzUllluxiAS_IL5Er&ll=8.222540974075901%2C-7.835798450000006&z=3

研究目的

- 5つの地域フランス語における、談話標識 « **bon** » と « **ben** » を質的に分析する。
- 地域によって « **bon** » と « **ben** » の使用数と機能が異なるのかを明らかにしていく。

質的分析

先行研究：Hansen (1995), (1998)

- **Hansen (1995)**：bon, benをそれぞれ機能ごとに分類
- **Hansen (1998)**：Hansen (1995)などをふまえてbonの機能を分類

	Hansen (1995)	Hansen (1998)
bon	話者が内容、発話内/発話行為、状況を受け入れることを伝える	間投的 ターン頭に現れる 話者が発話内容、発話行為、言語外的状況などの与えられた談話現象を受け入れることを示す
	話者が対話者に内容、発話内/発話行為を受け入れるよう要求する	固有的 ターンの内部に現れる 対話者に望ましくない発話現象を受け入れるよう要求する
ben	非真実 / 不関与 対話者の意図に対する反駁や議論の方向性の断絶	
	自明 すでに知っているものを根拠として提示	
	後続の発話の命題的内容の不関与 後続の発話の命題に関与しないもの	

先行研究：Peltier et al. (2020)

- Hansen (1995), (1998)などをふまえてbonの機能を分類

- 発話において命題同士の関係などを表す文脈的な機能を**文体的機能**としてまとめ、談話における相互作用的な機能を**態度的機能**としてまとめた。

- Hansen (1998)同様に**文体的機能**ではbonの現れる位置によって**開始**、**継続**と更に細かく分類している。

文体的機能	開始	新テーマ 新しいテーマの自発的な導入
		テーマの受容 対話者の提示したテーマの受容
	継続	新たな声 引用の開始
		二次的テーマ 発話の中心的なテーマに関連する新しいテーマの導入
		結果 発話されているテーマにおける結果
		補足 発話されているテーマに関連する補足情報をもたらす 説明・短いコメントの挿入
他の機能	付加的要素 列挙	
	テーマの再受容 もっと前に話されたテーマの再導入	
	表明 自分の考えを表明・表明しなおす	
態度的機能	対比 参加者の見解・信念の新しい方向付け	
	甘受 困難だがその状況を受容するという新しい方向付け	

本研究のbonとbenの分類①

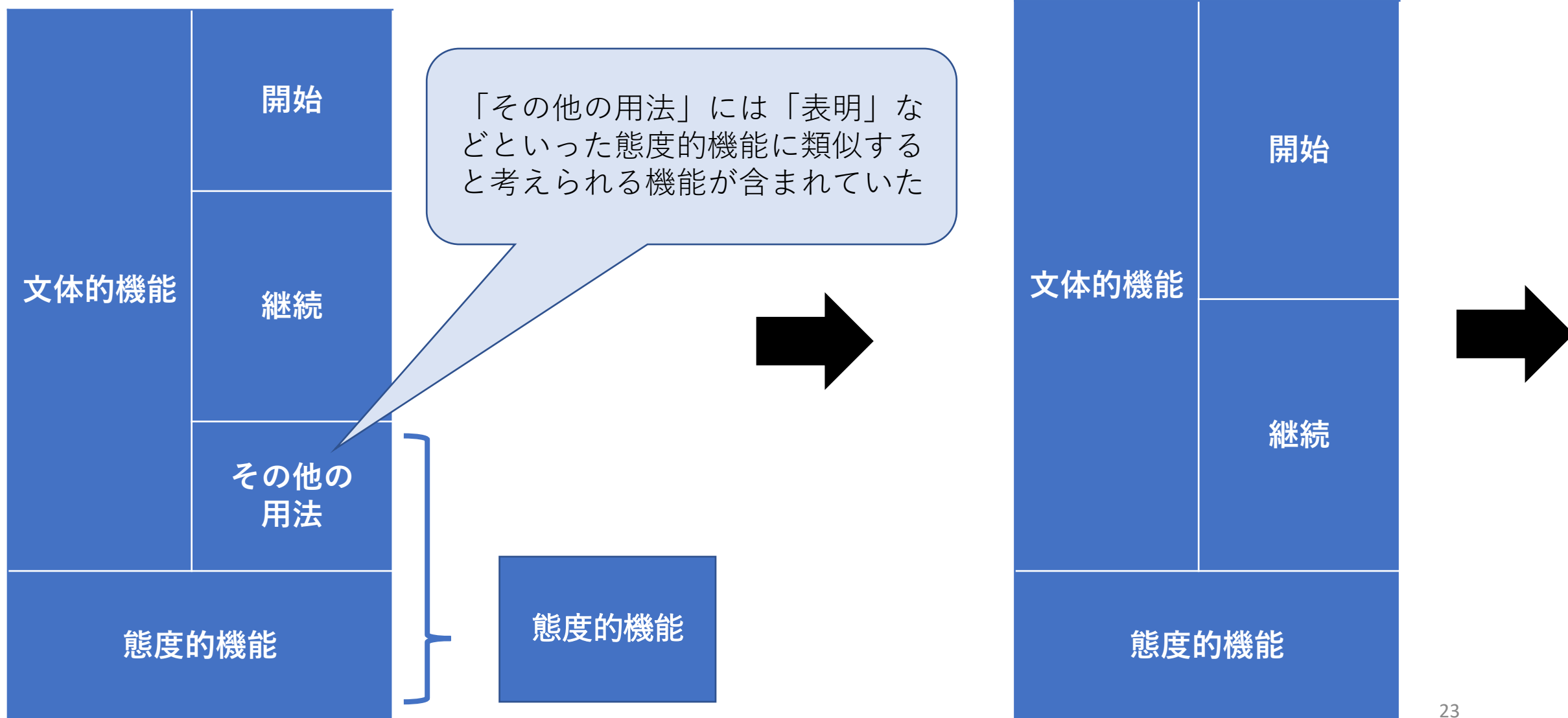
- Hansen (1995)におけるbenの機能の分類をPeltier et al. (2020)におけるbonの機能の分類に組み込むことを検討した。

ben (Hansen 1995)	非真実 / 不関与 対話者の意図に対する反駁や議論の方向性の断絶 = 開始 or 態度的機能 (Peltier et al. 2020)
	自明 すでに知っているものを根拠として提示 = 開始 or 継続 (Peltier et al. 2020)
	後続の発話の命題的内容の不関与 後続の発話の命題に関与しないもの = 継続 (Peltier et al. 2020)

- ➔ bonとbenを1つの基準で分類することが可能
Peltier et al. (2020)を基に、bonとbenの新たな分類方法を検討

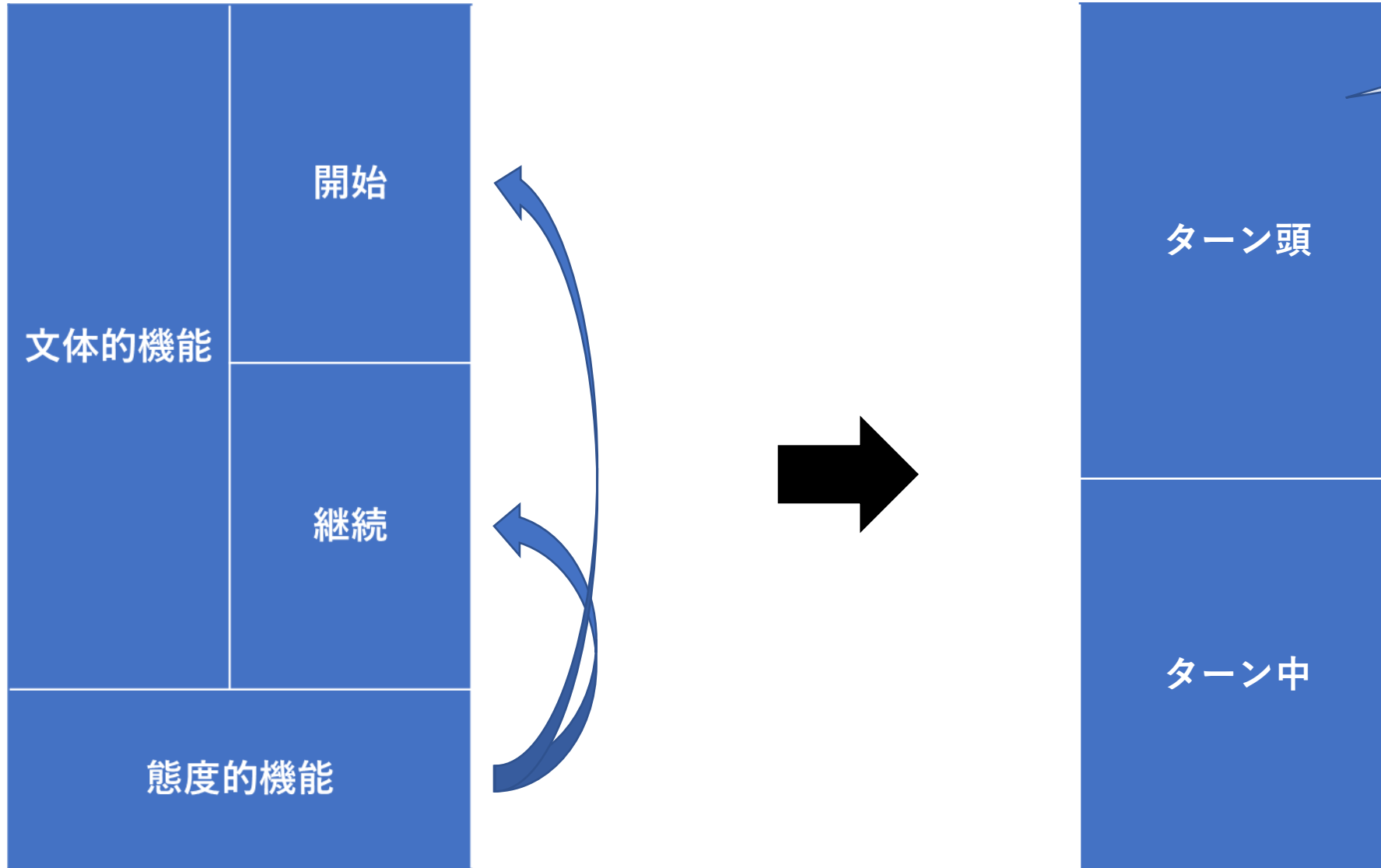
本研究のbonとbenの分類②

- Peltier et al. (2020)におけるbonの分類を再編し、bon, benに共通する分類を作成。



本研究のbonとbenの分類③

まずはターンのどこに現れるかといった談話標識の出現位置について観察



ターン頭についてはリエージュを除く各地域で見られるものの数が少ない

出現位置

(実際の生起数)

ターン中については各地域で一番数が多い
(括弧内はターン末の数)

	ニヨン	リエージュ	ケベック	ロアンヌ	モンペリエ	合計
ターン頭	6	0	3	1	4	14
ターン中	13	8	6	24 (+1)	39 (+1)	90 (+2)
合計	19	8	9	26	45	107

※ ターン末については全地域を通して2例存在したが、1例を除いていずれも本来はターン中のbonだが対話者が会話に割り込んだことでターン末となった例であるため、ターン中として分類する。(ターン中に分類できない1例は本研究では除外することとした。)

- 位置によって数に偏りが見られる。
- ある程度の数が見られるターン頭、ターン中については別個に分類を立てるべき。
- 合計で一番数が多いターン中のbonについては、より詳細に用法ごとに分類する。

現位置

ターン頭については各地域で見られるが総数はターン中に劣る

実際の生起数)

ターン中については各地域で見られ各地域における数を合計すると一番多い（括弧内はターン末の数）

	ニヨン	リエージュ	ケベック	モンヌ	ドゥゼンス	合計
ターン頭	6	16	9	8	15	54
ターン中	8	29 (+1)	6	37	2	82 (+1)
合計	14	45 (+1)	15	46	17	137 (+1)

※ ターン末については全地域を通して2例存在したが、リエージュの1例は本来はターン中のbenだが対話者が会話に割り込んだことでターン末となった例であるため、ターン中として分類する。（ターン中に分類できないもう1例は本研究では除外することとした。）

- 位置によって数に偏りが見られる。
- ある程度の数が見られるターン頭、ターン中については別個に分類を立てるべき。
- 合計で一番数が多いターン中のbonについては、より詳細に用法ごとに分類する。

本研究の**bon**と**ben**の分類

- 本研究における分類

ターン頭

ターン中

ターン頭の**bon**と**ben**

- 自発的であるなしに関わらず何か新しいテーマや意思を導入

bonの例

MG : **bon** De quoi qu'on parle (rires).

(en riant) Je sais pas, je pensais qu'il nous poserait des questions, moi.

MG : さて、何を話そうか (笑い) 。

(笑いながら) わかんないけど、彼が私たちに質問すると思ってたんだけどな。

(ケベック)

ターン中の**bon**と**ben**：因果関係

- 前後の内容に因果関係が存在

bonの例

ML : euh bon quand les petits sont nés, ils sont nés avec le piano sous la, sous, sous la main, et, et voilà alors ils ont euh, **bon** ils ont aimé la musique, ...

ML : えっとまあ、子供たちが生まれたとき、ピアノが身近にあって生まれてきたから、それで、それで、ほらだからえっと、まあ子供たちが音楽が好きだった... (ドゥゼンス)

ターン中の**bon**と**ben**：引用

- 発話者による他の発話の内容の引用

benの例

BL: Euh il est venu faire le travail, oui et puis il nous a dit **ben** ok euh maintenant vous contacter le carreleur euh on peut carreler la salle de bain, puis tu as le carreleur qui vient voir et il dit '**ben**, c'est pas prêt à carreler'.

E: Ouais.

BL: えー彼が仕事しに来て、うん、それで、私たちに「OK、そしたらタイル職人に連絡して、したら浴室のタイルの張り替え工事できるから」で、タイル職人が見に来たんだけど、彼は「タイルを張る準備はできてないね」って言ったの。

E: うん

(リエージュ)

ターン中の**bon**と**ben**：再表明

- 発話者の意見の再表明

bonの例

AB : Des des anciens, des personnes âgées qui ont leur <HE: patois> leur patois.

AB : Dans le Haut-Valais aussi et puis à <JE : Oui, **bon** ça dans les vallées

AB : 古い、歳いった人は <HE : 俚言> 俚言を話すよね

AB : Haut-Valaisとか、あとは <JE : うん、そう、谷の辺りとかね (ニヨン)

ターン中の**bon**と**ben**：言い直し

- 一度言いかけた語を、DMの後に再び発言

benの例

BB：...euh, contrairement à, probablement, d'autres régions du monde peut-être surtout **ben**, pas surtout mais entre autres en Europe,

BB：えっと多分、世界の他の地域とは反対に特に、えっと、特にという訳でもないか、でもヨーロッパの地域の間では。（ケベック）

ターン中の**bon**と**ben**：ターン維持

- 前後の内容に因果関係が存在せず、ターンの維持に使用

bonの例

R : Là comme chez nous **bon** il y a quatre cents, il y a quatre cents habitants quoi je crois, quatre cents, quatre cent vingt.

R : そこは私たちのところみたいに、400、400人だかの住人がいるとおもっただけど、400、420人か。 (ロアンヌ)

り)

ニヨンでは
引用、再表明は0
ターン維持が一番多かった

リエージュでは
ターン頭、引用、再表明は0
因果関係が一番多かった

ケベックでは
因果関係、再表明、言い直しは0
ターン維持が一番多かった

			ニヨン	エージュ	ケベック	ロアンヌ	ドゥゼンス
ターン頭			46	0	58	7	20
ターン中	発話内容に 付随した テーマや 意思の 導入	因果関係	23	45	0	7	27
		引用	0	0	19	0	0
		再表明	15	0	0	22	38
	フィラー	言い直し	0	18	0	22	38
		ターン維持	54	9	96	137	115

引用は
ケベックでしか見られない

ロアンヌでは
引用は0
ターン維持が一番多かった

ドゥゼンスでは
引用は0
ターン維持が一番多かった

り)

ニヨンでは再表明は0
ターン頭が一番多かった

リエージュでは再表明は0
ターン頭が一番多かった

ケベックでは引用は0
ターン頭が一番多かった

			ニヨン	リエージュ	ケベック	ロアンヌ	ドゥゼンス
ターン頭			54	142	174	61	71
ターン中	発話内容に付随した テーマや意思の導入	因果関係	15	85	19	38	0
		引用	7	75	0	0	0
		再表明	0	0	58	68	0
	フィラー	言い直し	7	37	19	15	0
ターン維持		23	75	58	160	11	

引用はほとんどリエージュで見られない

ロアンヌでは引用は0
ターン維持が一番多かった

ドゥゼンスではターン頭とターン維持しか見られなかった

※が 後続の発話の

地域別まとめ①

- ニヨン

引用、言い直しの**bon**は使用されない
再表明の**ben**は使用されない

- リエージュ

ターン頭では**bon**は使用されない
引用、再表明の**bon**は使用されない
再表明の**ben**も使用されない

地域別まとめ②

- ロアンヌ

引用のbon, benは使用されない

- ドゥゼンス

引用のbonは使用されない

benの機能としては因果関係、ターン維持しか見られない

地域別まとめ③

- ケベック

因果関係、再表明、言い直しのbonは使用されない
引用のbenは使用されない

- いずれの地域においても、bonの機能の範囲とbenの機能の範囲に重複が見られる。

➡ bonとbenが相補分布的に異なる機能を担っている訳ではない。

結論

結論

- 地域によってbon, benの機能ごとの使用数は異なっていた。

例) 引用のbonはケベックでしか見られない。

引用のbenはほとんどりエージュでしか見られない。

- いずれの地域でもbonとbenが相補分布的に異なる機能を担っている訳ではなかった。

今後の展開

- 地域フランス語のコーパスの規模の拡大

スイス：Genève, Neuchâtel

ベルギー：Gembloux

カナダ：Saguenay, Trois-Rivières

フランス（fp語圏）：Grenoble, Lyon

フランス（òc語圏）：Lacaune, Toulouse

今後の展開

- 他のDMの質的分析

例) hein, làなど

- 日本人フランス語学習者の自由会話におけるDMの使用の分析

例) テーマ導入時ネイティブはbonやbenを使うが、
日本人フランス語学習者は何と言っているか

引用文献①

- DETAY, S. et al. (2010). *Les variétés du français parlé dans l'espace francophone: ressources pour l'enseignement*, Paris : Editions OPHRYS.
- HANSEN, M. –B. M. (1995). « Marqueurs métadiscursifs en français parlé : l'exemple de bon et de ben », *Le français moderne LXIII N°1*, 20-41. Paris : Édition CILF.
- (1998). “The semantic status of discourse markers”, *Lingua 104*, 235-260. Amsterdam : Elsevier.
- LEFEUVRE, F. (2011). « Bon dans le discours oral : une unité autonome ? » halshs-00797188.
- PELTIER J. P. G. et al. (2020). « Le marqueur discursif bon : ses fonctions et sa position dans le français parlé ». In: *Congrès Mondial de Linguistique Française - CMLF 2020*.

URL (PFCコーパス)

- DURAND, J. (2001). Douzens. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%202>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- DURAND, J. et al. (2002), “La phonologie du français contemporain: usages, variétés et structure”, In C. Pusch & W. Raible (éds), *Romanistische Korpuslinguistik- Korpora und gesprochene Sprache/Romance Corpus Linguistics – Corpora and Spoken Language*, Tübingen : Gunter Narr Verlag, 93-106.

引用文献②

- FRANCARD, M. (2006). Liège. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2084>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- LAKS, B. (2002). Roanne. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2030>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- LYCHE, C. (2004). Nyon. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2089>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2006). Université Laval (Québec). <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2065>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2006). Ile de la Réunion. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2093>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- Phonologie du français contemporain*. <https://www.projet-pfc.net/>

謝辞

- JSPS 科研費[20K00566] 「現代フランス語話し言葉における談話標識と言語変異の記述」， 基盤研究(C)， 2020-2023年， 研究代表者 秋廣尚恵
- JSPS 科研費[20H01279] 「言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」， 基盤研究(B)， 2020-2023年， 研究代表者 川口裕司

ご清聴ありがとうございました